

平成二十四年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一五〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

(イ・ヨンスク、『異邦の記憶——故郷・国家・自由』、明石書店、二〇〇七年、一〇四—一二二ページ、抜粋・一部改変)

問一 本文の論旨を六〇〇字以内でまとめなさい。

問二 本文で述べる「国文学」と「ポストコロニアル文学」の関係について、あなたの考えを六〇〇字以内でまとめなさい。

平成二十四年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科の琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄および日本・アジアという地域を主な対象とする広汎な文化認識の習得を目標とし、具体的にはこの地域に関する歴史・民俗・文学・言語などへの関心と理解を深めることを目指している。したがって、この専攻への入学希望者には、沖縄や日本そしてアジアの文化の成り立ちに対する深い関心と理解力が求められる。問題文は、「国文学」という言葉が持つ問題、そして国家主義的な文学にも土着主義的な文学にも属さないものとしての「ポストコロニアル文学」について論じたものである。本出題の意図は、「国文学」と「ポストコロニアル文学」についての論述形式の文章を正確に読みとり、論旨を的確に把握できるかをみることにある。加えて、「国文学」および「ポストコロニアル文学」とそれらの関係性について多様な視点から論じた文章に関する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。